

令和２年度第２回徳島県少子化対応県民会議 概要

- 1 日 時：令和３年３月２２日（月） 午後１時３０分から午後３時１０分まで
- 2 場 所：徳島県庁 １１階 講堂
- 3 出席者：青野会長、兼松副会長、春名委員、田山委員、橋本委員、吉田委員、井原委員、林委員、田中委員、湯浅委員、七條委員、森委員、井口委員、佐野委員、清原委員代理
- 4 議 題：
 - （１）第２期徳島はぐくみプラン（後期計画）の進捗状況について
 - （２）令和３年度少子化対策予算について
 - （３）はぐくみプラン関連施設について
 - （４）委託事業報告「県内企業の仕事と子育てについての実態調査」について
 - （５）その他

5 議事概要

○開会挨拶 上田未来創生文化部長

○議題（１）～（３） 事務局説明

【会長】

御説明どうもありがとうございました。ただいまの説明につきまして、御質問、御意見がございましたら、どなたでも結構ですので、御発言ください。挙手にてお知らせください。

【委員】

資料１の取組進捗状況の中で、コロナの影響で中止せざるを得なかった、縮小した事業があると思うのですが、この時には何か代替りの対策をとられた方法で、この事業を何らかの形で実施してはどうかと思います。資料２の前回もお伺いしたのですが、新型コロナ対策予算としてつけていただいている予算で、今後コロナの影響が少なくなるだろうと思うのですが、コロナに限らず大事な事業に関しまして、継続していただけたらと思いますので。単年度で終わらないように事業の予算も事業の内容もコロナに関わらず、こういう形で育児支援をしていただけたらと思います。

【事務局】

コロナ対策、ワクチンも医療関係者からまず接種が始まっているところではございますが、コロナとの付き合いは長くなるような様子になっております。また、新しい生活様式になっていかざるを得ないと思いますが、必要なものにつきましては、コロナ対策ということで、当然予算をとって参りますし、事業につきましても、本来は直接ふれあって、温かみを感じながらしなければいけないような事業もございますが、一部の事業につきましては、オンライン等々での対応もいたしております。ただ、それは全てとい

うわけではございませんので、現実のふれあいの部分とオンラインを使った部分を併せながら実施して参りたいと考えております。

【委員】

ありがとうございました。私たち with コロナ、アフターコロナ、アフターコロナの後を早く期待しているんですが、やはりこういうことがありまして、いろいろな形で方法も考えながら感染の中で大切なことを見逃さないように、事業を進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【委員】

子育て総合支援センターみらいができて、子どものための支援ができるのは、とてもいいことだと思います。ただどもですね、資料2の2番目の「妊娠・出産・乳幼児支援の充実」で申し上げたいのですけれども。妊娠・出産は妊産婦ですよ。乳幼児というのは乳幼児ですね。これを一緒にするということで、妊婦さん、ひいては母親になりますけれども、母親が非常に見えてこないんですね。どこで消えていくのかなと思うところはありますけれども。本当に、大事なお母さんがしっかり位置しなきゃ、女性がしっかりしなきゃ、今女性は疲労のことで自殺者が多いですし、大変な時代で、大変な環境にいらっしゃいます。こういうお母さんについてのそれは別にさせていただいて、支援は妊産婦と乳児とそれぞれに支援の充実っていうところは、分けてお考えしていただかないと思います、お願いいたします。

【事務局】

妊婦の方と乳幼児への支援ということで、今回の会議にはおっしゃっていただいたように、分けて知恵を出せるように、ちょっと検討させていただきたいと考えております。

【会長】

今の御説明ですけれども、一体化されている事業もあるのでないですか。完全に2つに分けられるということでしょうか。

【事務局】

分けれるものにつきましては、分けさせていただきますし、続けてというものについても、そのような整理といいますか、わかりやすい形で検討させていただきたいと考えております。

【会長】

いかがでしょう。先ほどもそういう御主旨だったと思うんですけども、全てを分けるのではなくて、分けた方がいいものという御提案でしょうか。

【委員】

乳幼児と母親とは支援に非常に大きな差があると思いますね。違いがあると。そのところを計画に入れていただきたいと思います。今そのところでは一つのラインが入っております。

【会長】

わかりました。次回以降反映していただくということで。ありがとうございました。

【委員】

先ほどのお話の少し足りないところを言わせていただきます。私、この会で以前、生まれてからの支援は徳島県たくさんやっておりますけれども、妊娠中の支援がはっきり言ってありません。14回の妊婦健診の内、全額が無料ではありません。超音波検査14回の内4回、それ以外全部お金がかかっております。

それともう1つ、晩婚化に伴って高齢出産の人が非常に多いです。30歳以上。そうすると、何が現在全国的に起こっているかというと、合併因子、妊娠高血圧症とか糖尿病とか検診以外でも保険診療がすごく費用がかかっています。個人の負担が。そこに前回言った妊産婦医療費助成制度。岩手県、栃木県、富山県、妊娠中の保険診療は、全て無料です。乳幼児医療費助成制度が市町村で始まって全国でありますように、そういう展開をしていただきたい。

先ほど冒頭に上田部長が出生数が昨年87万で過去最少といっておりますけれども、日本では出産数と婚姻数が比例しているんですね。昨年の婚姻数が53万件で、12.7%減となっております。これはもう、コロナで結婚、結婚式を控えたというのもあると思いますけれども。それと昨年の1月から10月に全国の自治体が受理した妊娠届出数が5.1%減少して、今年は80万人を切るといわれている。これは、過去最少の出生数が今年出る可能性があるのと、今が底なのか、まだちょっと足踏みするのかっていうのは、やはり子育て支援だけでなく、結婚を望む人たちが結婚できるように経済的支援を充実させるような少子化対策を見直す時期が来ていると思います。

【事務局】

出生数と婚姻の関係をおっしゃっていただきましたが、やはり比例していると考えております。昨年新型コロナウイルス感染症が拡大しまして、それ以降の影響、昨年度の前半でありますとか、秋頃までは妊娠・出産にあまり本来影響はなかったのだろうと考えており、今後まだ更に影響が出てくる可能性が高いと考えております。

委員おっしゃっていただいたように、今回もマリッサとくしまで婚活支援をしておりますが、結婚に対する意識が皆さん、アンケート調査も実施しているのですが、コロナ禍で変わってきているような状況もございます。今年度もコロナの対策を十分とって、小規模のマッチングであるとか等色々しているところではございますが、来年度以降もオンラインで婚活ができるような形とか、考えてございます。まずは、婚姻いただいて、出生数を増やしていけるように、来年度以降も実施して参りたいと考えております。

【会長】

よろしいですか。委員は今までの御発言を踏まえてということですが、この会議自体で、次世代育成のところで、婚活の所に注力する、それから子育ての所に注力する、そこで置き去りにされているというのが妊娠中の女性に対する支援ということですね。それについていえば、経済的な面で、他の県で実際に助成制度もあるという具体例を挙げていただいて、その検討ということですね。その辺はシームレスというか、実際に

次世代を産んでもらう母親を大事にするということで。ちょうど今日もニュース出てましたけども、コロナの母子感染が1例あったのじゃないかというのがでていて、ただし、非常にまれな例ですし、子どもについても特異な疾患は認められないというのが何度もでてきましたけども、そうやって実際に安心して産んでいただく、それから育てていただく、ということで、妊娠継続に関しての先ほど言われた14回の検診があって、そのうち本県では4種類しか助成していないということですか。

【委員】

超音波検査です。妊娠初期と妊娠20週、30週、36週の4回の助成。多胎妊娠は妊娠20週前後に2回、計6回の助成。

【会長】

その時の検診が無料だということで、他のが無料でないということですか。

【委員】

検診だけだったら補助がでていますけども、超音波をみんな見たいでしょ。医療費をサービスしている医療機関もまれにありますけども、ほとんど自費で3千円とか5千円取ってるところもありますし、毎回払っているわけです。そういった所だけでも助成、これ基本は市町村と交渉してやっておりますけども、県が補助するとか助成するとか、やってあげたらいいと思います。

【会長】

ありがとうございました。次回また検討ということでよろしいでしょうか。

【事務局】

今これ、県庁各部出てきておりまして、妊産婦に係る医療費助成は保健福祉部が中心となってやることになっておりますけども、今委員からおっしゃっていただいた先進的な事例も参考にさせていただきながら、今回新たな予算を出しておりますけども、当然これで十分でないことは思っておりますので、また、将来という話になるかもしれませんけども、しっかりと努めていく、担当の方にも検討させて参りますので。

【委員】

よろしくお願いいたします。

【委員】

資料1でいうと21番の「事故危険箇所における安全対策の実施」というところで、目標値が24箇所全部終わりました、100%になっていますね。資料2の予算のところもつかないみたいな感じで書いてありますが、私は阿南市の方のPTA連合会で阿南市内の危険箇所も県の警察の方かな、一緒に回って見たのですが、結構、地元の学校からもどうにかしてほしいという声も結構あって、もちろん阿南市が検討すべき所は市がするんですけども、信号付けるとなると県の方になりますし、あるいは県道であったりとか、そういう所、阿南以外でも結構あると思うんですよ。阿南も現に私の今年の

任期中でも何箇所かあって、信号付けるのにも1本結構な値段がたって、なかなかつけられないという事情を聞いておりましたけども。令和6年度の24箇所というのがどういう目標かわかりませんけども、クリアしたからゼロっていうのはないんじゃないかなと。多分、徳島県内の子どもたちが通っているルート上で危険な箇所っていうのはまだ結構あって、それが徳島県に絡むところはあるはずだと思うんですけども、最初の目標設定をした時がどのタイミングでどの場所だったのかはわかりませんが、少なくとも最初の24箇所が終わったのであれば、次の場所をもう1回選定するなり、各市町村からの声を吸い上げて、もう1回設定して予算化していただいて、なんとかしてもらいたいなと。結構あるんですよ、阿南でもあるし、多分他の市町村でも絶対にあると思いますので、目標達成したから予算いらないって言うようなことはしないでやっていただけないかなと思うのですが、どうでしょうか。

【会長】

先ほど冒頭説明の時におっしゃられたかと思うのですが、再度になりますけどもお願いいたします。

【事務局】

事故危険箇所についてでございますが、24箇所と決めたのが平成29年度で、令和2年度までの4年間で24箇所という目標にしております。これを決めた方法ですけども、道路管理者と警察等が連携して取り組み、市町村、地域からの要望等も踏まえまして、箇所選定しております。令和2年度で24箇所全ての対策が終わったということで、3年度から改めて事故危険箇所を設定するという動きがあります。決まるのが来年度になるということで、（令和6年度までの目標値が不明であり）令和2年度までの目標である24箇所全て終わったという表現です。以上です。

【委員】

ありがとうございます。かなりあると思います。小さい所から結構大きいところまで色々な場所があると思います。僕も今年初めて色々一緒に回らせてもらって、気付きましたので、ぜひ前向きに予算付けていただけたらと思います。よろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございます。丁度PTAとしてというので、これも数日前に全国でバス停付近に横断歩道があったりっていうので、それについても、かなり集中的に改善していくということが出てきたようですので、本当に子育てに安心安全快適なまちづくりの推進というところで、この事故危険箇所についても、今後とも同じように県として取り組んでいただけたらと思います。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

【委員】

24頁のチーム育児推進の事業についてですけども、男性の子育て参画セミナーを企画されているので、今の段階でどういった内容になっているのか、決まっている範囲で教えていただきたいというのと。あと、チーム育児の考え方や内容について、ある程度僕も理解しているかなと思っているし、子育てしている人に対してそれを伝えるのは大

切かなと思っているんですけども、実際子育て支援する側っていうのは、子育てひろばだったりチーム育児のこう、夫婦と周りの人と、小児科、産婦人科も含めてだと思おうのですけども、子育て支援する側がチーム育児っていうのを考えたときに、そこがチームとして連携できているのかっていうのが大切かなと思っていて、例えば、子育てしている人が子育てに悩んで相談したい、例えば子育てひろばに行って相談したときに、その内容が小児科だったり、産婦人科に相談すればいいような内容だった時にそこがうまく連携できていれば、別の日に産婦人科とかに行くのではなく、例えば子育てひろばの中で、オンラインでつないだりとか、電話でつなぐとか、そういった所の連携ができていることによって、相談の窓口としては、子育てひろばだったりとか、ネウボウのような包括センターに相談に行けば、子育て支援に関係する所に上手く繋いでくれるというような連携が大切かなと思いますので、そういった子育て支援する側がうまくチームとして連携できるような取組を考えていただきたいというのが1つ。

チーム育児が必要な時期っていうと、まず1つ目が産後、あと育休が明けて仕事復帰する上で仕事と家庭の両立をする上で、周りの支援を使って上手く両立するということで、そういった産後や育休復帰するときに、チーム育児が必要な人に対して、チーム育児がどういったものか、そのやり方を学べるような講座っていうのもチーム育児の推進事業として、前向きに検討いただけたらと思っております。よろしくお願いします。

【事務局】

男性の子育て参画セミナーの開催の新規事業のお尋ねでございます。来年度の新規事業ということで、具体的なことは新年度に入りましてから、各子育て支援団体の皆様や、みらいの方で事業を委託させていただいている助産師会の先生方、様々な各方面の先生方に御助言いただきながら、事業の詳細を具体的に詰めて参りたいと考えております。私も初めて男性の子育て啓発の取組を試みるというところでございますので、出産前からお子様が生まれて間もない御夫婦などを想定いたしまして、夫婦協働で子育てをしていくというような意識の醸成というものを一番の目的に、より良い効果的な事業が実施できますように、各方面の先生方の御助言を賜りながら事業を企画立案して参りたいと思っておりますので、御助言の程よろしくお願い申し上げます。

【委員】

ありがとうございます。参考までになんですけど、ファザーリングジャパンっていう男性の子育て支援を行うNPO団体があるんですけども、今年、ファザーリングスクールっていう9年前か10年くらい前に東京とか横浜とか、そういった都会の方で父親向けの連続講座をリアル講座でやっていたんですけど、それが今年新しくなって、全てオンラインで全国どこからでも参加できる、プレパパ向けだったりとか、0～1歳向け、2～3歳向けのような子どもの年齢に合わせた連続講座、有料なんですけど、ファザーリングジャパン主催でファザーリングスクールをする予定があって、5月くらいにリリースして、夏から開講するような予定で進んでいます。自分も運営に関わらせてもらっているんですけど、そういった内容を5月くらいになったらリリースできるかと思っておりますので、また県の職員さんとかに情報共有させていただけたらと思っておりますので、そういう内容も参考にさせていただけたらと思います。

また、その内容的に県としても、徳島県に内容的に問題ないようであれば、情報発信

の上で御協力いただけたらいいなと思っておりますので、ぜひ御協力よろしくお願いします。

【会長】

特によろしいでしょうか。

それでは、続きまして、議事4になります。委託事業報告であります。先ほどの委員の方からもありましたけれども、「県内企業の仕事と子育てについての実態調査」について、徳島文理大学の水ノ上先生より報告いただきます。

○議題（４） 委託事業報告「県内企業の仕事と子育てについての実態調査」

徳島文理大学 水ノ上准教授 報告

○意見交換

【会長】

水ノ上先生、どうも貴重な御報告ありがとうございました。おそらく今御報告をいただいて、いろんな感想を持たれた方が多いと思うのですが、これについて意見交換する時間がとれなくて申し訳ございません。ただ、水ノ上先生の方に直接御連絡いただければ、この調査について委員の方から御質問ありましたら御対応いただけますでしょうか。こちらの報告の冊子の方にもたくさんの情報が載っておりますので、帰られて、御質問等がございましたら、私の方からも連絡大丈夫です。事務局の方でもいいと思いますけども、直接水ノ上先生に御質問大丈夫ですので、よろしくお願いいたします。

それでは、予定しました議題は全て終わりましたが、毎回で申し訳ないですけど、私としては、せっかく御出席いただいた方々、一言二言でも御意見、御質問いただきたいと思います。限られた時間ですけども、御質問などいかがでしょうか。

【副会長】

ただいまの水ノ上先生の貴重な実態調査の御報告いただきましたが、これまでこの会議で言い続けていたことの裏付けといいますか、根拠をいただいたような気持ちであります。やはり企業が大きな鍵を握っているということ、それに対して、県としてもチーム育児という新規事業として、更に進行させるべく、大きな予算が付いたということも、県としての意気込みを感じるところです。私の存じ上げている県の職員の方が、お一人目の出産の時に妻と十分一緒にいられなかったのが、二人目の時には、積極的に休みを取ったり、早く帰るよう心がけている。子どもの成長が見られて本当に楽しい。その分仕事を時間内にどうやったら効率よくできて、早く帰れるかということをおっしゃっていたのが非常に印象に残っています。こうしたチーム育児ですけども、コロナ禍の中で、夫婦間で子育てについて話をする、あるいは人生プランについて話をする時間があるのではないかと思います。佐野委員が昨年6月にNHKの取材を受けられた時も、チーム育児をなさっている様子が紹介されました。その前段で紹介された内閣府の昨年6月の調査では、子育て世帯がコロナ禍で、家事育児を分担するようになったという世帯が3分の1。

その3分の1の中で、これからも工夫していくんだという意思表示をしたのが95%ということでした。話し合いをすれば、ほとんどの御家庭でこれからも工夫していこうというチーム育児のメリットを感じていることがわかるような、そういう特集でございました。今も印象に残っております佐野委員さんのチーム育児ということと、併せて、働き方改革にもつなげていける。

あと、ぜひ県の方には、先日別の会議でお伝えしたばかりですけど、チーム育児のサイトを拝見しますと、チーム育児応援企業が5社紹介されていて、そのうち3社ははぐくみ支援企業の表彰企業でした。ぜひ、労働雇用戦略課のはぐくみ支援企業認証表彰制度と連動して、さらに積極的に応援企業を増やしていただきたい。それとメリットとして、何か副賞を付けていただきたい。例えば、井口委員さんのところの「くーぽん丸。」。県内の店舗で特典がいただけるところとか、県の施設、あすたむらんど、渦の道エディ、美術館などですね、県の施設を無料で利用できるようなクーポン券等をチーム育児応援チームにエントリーしたら、あるいは賞を取った時に副賞としていただくような、そういった win-win の関係が築けるような具体的な施策につなげていただきたいながら、そのメリットを実感していくような取組。あと社会通念というまだまだ壁もありますので、様々な分野での研修なども積み上げていけたらいいと、そういう思いを実態調査や予算編成を拝見して思ったところでございます。ぜひ県の方には積極的な推進をお願いいたします。

【委員】

私どもの社会福祉協議会福祉人材センターでは、徳島県から保育士保育所支援センターの委託事業を受けさせていただいております。ここでは、社会の生活基盤を支える福祉人材、いわゆる保育に特化した分野の人材の確保であったり、また、職員さんの育成・定着というところで、様々な関係機関、また保育所、また養成校の先生方とも協力しながら事業の方を進めて行っております。今、徳島県全体を見てみますと、やはり中央部ではある程度人材という部分では確保できる状況もあるかと思うんですが、やはり、西、南というところになってくると、本当に、先日も西の先生とお話したのですが、人材確保という部分では本当に壊滅的の状況ということも聞いております。これに対して何か特効薬があるのかというと、そういったものはなくて、本当にいろんな方が、私どもも含めて地道な各取組をするのが必要なのかなと思っています。そんな中で、今女性の方の社会進出等もありまして、保育園のニーズもやはり年々増えている中で、保育の現場という部分でも、いろんなニーズに対応していかななくてはならない、というところがあるんですが、新たな人がなかなか確保できない、ということになると、今働いている保育士さんを定着いただく。変な言い方ですけど、辞めさせずに定着してもらうというところも1つ今後重要になってくるのかなと思っています。

感想を述べさせていただくのですが、資料1の方にも保育助手制度というのを県の方が作られて事業進められておられると思います。ここでは、現職の保育士さんの、当然業務の負担軽減であったりとか、またその負担軽減を図ることで、保育の専門性を出していただいて、保育の質の向上であったりとか、それがいわゆる離職防止に繋がったり、というような事業になっているかと思うのですが、ここに新たな年代の方、シニア層の方に参画いただいて、保育の現場を支えていただくという部分で、とても

いい制度とっておりますので、今年度は初年度ということでまだ10%程度の進捗は拝見させていただきましたが、コロナの影響があるというところかもしれませんが、ぜひこういったあらゆる世代の方に参画いただいて、いろんな主体が共同して、子どもたちを支える、はぐくむ社会づくりをもっともっと県の方にも推進していただけたらと思います。本日はどうもありがとうございました。

【委員】

私たち子育てひろばの方では、徳島県助産師会の先生方に御協力いただいて、マタニティのイベントの日を設けております。そちらの方はコロナの関係で、産院の方で詳しくお話を聞けなかったりとか、パパママクラスの方がなかったために、いろいろ教えて欲しいと来られるママもいらっしゃったり、逆にそういった（子育てひろば）「すきっぷ」の存在を知らないマタニティさんも多くいらっしゃいます。そういう関係で徳島県の産婦人科の方と繋がるのは大事だなと思いましたので、御協力の方お願いします。

あと、チーム育児の方で研修もあると聞きましたが、研修もやっぱり、会場も限られていて、人数も制限があると思います。そういった関係で、オンラインで発信できるところはオンラインで発信していただければ、より多くの方が知識が学べるかなと思います。よろしくお願いいたします。

【委員】

私も商工会議所女性会で婚活イベントをやって参りましたけども、コロナでなかなかそういう事業ができないんですけども、少しずつでも、皆さんと協力して、1人でもお子さんが増える協力はさせていただきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【委員】

この進捗状況の中で、産前産後の妊産婦さんの不安解消を図るための交流イベントとかがあって、でも今年はコロナウイルスで、63組にとどまったってなっているのを見て、私、妊婦さんは産前産後も不安定な状態にいると思うので、また、若い方も多いと思うので、オンライン進めていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

担当局の関係上、人権擁護の観点からお話しさせていただきますと、現在、全国で児童虐待の件数が増加傾向にあります。県内の児童虐待の件数を減らしていけるように、全ての育児家庭が安心して育児を行うことができるような制度等、今後も積極的に実施していただければと思います。本日はありがとうございました。

【委員】

今、不妊治療している人が近所にいるんですけど、その金額ってすごいよね。それで払うお金が何万、何十万となる。それで、1人目でやめたらいいけど、やっぱり欲しいと言って、2年、3年いってたら、働いている金額は僅かですけど、どうにか

ならないかなと思います。お願いします。

【委員】

今年度、新型コロナウイルスの影響で、大変な思いを皆さんされてきたことと思います。私ども財団の方でも、いろんな行事が中止になったり、延期になったりしました。7箇所のファミリーサポートセンターとか、3箇所の子育てひろばを運営しておりますけれども、その中で、在宅で育児をされている方のことを常に私どももすごく心配して、色々なアプローチを続けてきたところではあります。

今日の資料にもございましたが、とくしま在宅育児応援クーポンの利用率が少し低いかなという印象がございましたので、全市町村で使用できる仕組み作りであるとか、サービスの充実について、今後も力を入れていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

どうもありがとうございました。それでは、少ない時間で申し訳なかったですが、本日の会議はこの辺にしたいと思います。それでは事務局にお返しします。

【事務局】

会長、ありがとうございました。
それでは、閉会にあたりまして、上田部長からお礼を申し上げます。

○閉会挨拶 上田未来創生文化部長

【事務局】

以上で、本日の会議を終了いたします。どうもありがとうございました。